

■5年ぶりに「ポテトボウル」開催

体の不自由な人たちにもアメリカンフットボールの魅力を知ってもらい、合わせて関係者の善意も募る第51回肢体不自由児者チャリティ・アメリカンフットボール・ゲーム「ポテトボウル2024」が8月25日、札幌市円山競技場で行われた。同ボウルの開催は5年ぶり。この日開幕した第50回北海道学生選手権の第1節2試合が冠試合となり、招待された車椅子の5人と家族らが、選手たちのプレーに見入った。

ポテトボウルは、北海道肢体不自由児者福祉連合協会の協力を得て、北海道アメリカンフットボール協会が特別後援、北海道学生アメリカンフットボール連盟が主催する。2019年の第46回を最後に、新型コロナウイルスの感染防止対策と悪天候などのために2020年から4年連続で中止され、今年は5年ぶりの開催となった。

快晴に恵まれた25日は、招待された12歳から40歳までの男性2人、女性3人が家族らとともに北海道肢体不自由児者福祉連合協会の職員の引率で来場した。第2試合の開始前にはセレモニーも行われ、車椅子の代表3人が北海道大の里見監督と東京農業大の神田コーチに花束を贈り、両氏から寄付金の目録を受け取った。第2試合が始まると招待者たちは、気温が高い屋外を避けて本部席から観戦。思い思いに試合の熱気を味わっていた。



【車椅子の招待者から花束を受け取る北海道大の里見監督と東京農業大の神田コーチ】